



**古川和雄神父 帰天**  
修道会日本管区の管区評議員兼修練長で、聖母の騎士



**初田徳一神父 帰天**  
コンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭の初田徳一

**司祭叙階 金祝・銀祝**  
中央協議会から、今年司祭叙階50周年、25周年の方々の発表が行われた。司教で司祭叙階銀祝は、谷大二さいたま司教と

カトリック長崎大司教区 広報委員会  
下 岸 英 知  
〒852-8113 長崎市上野町10-34  
カトリックセンター内  
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417  
郵便振替番号 018 80-5-2699  
カトリック長崎大司教区ホームページ  
http://www.nagasaki.catholic.jp  
印刷所 株式会社 藤木博英社  
〒850-0852 長崎市万屋町5-13  
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148



## 26聖人殉教記念ミサ

2月7日、日本26聖人殉教記念ミサ(教区主催、長崎南地区評議会運営)が高見三明大司教司式のもと長崎市の「西坂の丘」で行われ、司祭47人と各地から集まった巡礼者ら約2600人が共に祈った。

ミサ中には、聖デイエゴ喜斎の聖遺物が祭壇近くに顕示された。説教師を務めたディアス・マヌエル師(イエズス会立山修道院・写真)は、分かつやすい言葉で繰り返し



「祈りながらこのミサをささげましょ」と説いた。この日、北海道から山内実神父(長崎教区)と共に旭ヶ岡の家族会



訪れ、小林 勲さん(函館市・元町教会)は「素晴らしいミサでした。殉教の地で実際に参加することができ、とてもよかった。皆さんも感銘を受けられたのではないで

う祈りながらこのミサをささげましょ」と説いた。この日、北海道から山内実神父(長崎教区)と共に旭ヶ岡の家族会

の8日間をかけて、近隣の教会を巡りながら26聖



の8日間をかけて、近隣の教会を巡りながら26聖

## ドン・ボスコの聖遺物、日本へ

サレジオ会の創立者で、青少年の教育に生涯をささげた聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)。その聖遺物が、同修道会創立150周年にあたる2009年にイタリア・トリノを出発し、ドン・ボスコ生誕200周年を迎える2015年までの6年間、世界中を巡っている。この2月2日には日本入りし、7・8日は長崎の地にも訪れた。



修道院 長崎星美幼稚園へと引き継がれた。日ごろからドン・ボスコの話に親しんでいるという同園の園児たちは、鼓笛を鳴らして聖遺物を歓迎

保護者、信徒も一緒に、園児たちによる歌やファンファレの演奏、保護者による共同祈願、全員での記念撮影など行い、喜びの時間を過ごした。

(写真) サレジオ会、サレジオ・シスターズ、イエスのカリタス修道女会、サレジオ・コーペラトリ、幼稚園職員・

## 「家庭の黙想会」開催

教区家庭福音化担当部は2月13日(日)カトリックセンターにおいて、「家庭の中で宗教が異なる時」というテーマで「家庭の黙想会」を開催し、約100人の信徒が参加した。講師は、『カトリック教会の諸宗教対話の手引き 実践Q&A』(カトリック中央協議会 編集委員で、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の園田善昭神父(仁川教区、園田神父は、前掲書をテキストとし、自身の牧者としての体験も紹介しながら、「宗教の異なる配偶者、親族、隣人への精いつばいの愛が、諸宗教対話の基本である」とを説いた。また、アシジの聖フランシスコの模範を示し、「よいクリスチャンとして生活することとは、隣人を自分のように愛することであり、宗教の異なる人に対しても愛と尊敬と配慮こそが行動の原理となる」とことを分かりやすく説明した。講話後行われた質疑応



答では、「仏教の人と結婚する娘がカトリックをやめて仏教徒になるとどう対応したらよいでしょうか」という問いに対して、園田神父は「愛をもって対応してくださ

「家庭の黙想会」は高見大司教司式の結婚の約束更新とミサで締めくくられた。参加した女性らは、「すでに頭の中は今日の夕御飯の献立をどうしようかということではないですが、尊敬と愛をもつて接することが一番大事」という言葉に感動しました。そのように実践したいです」と感想と決意を語った。

小教区に、珍しい教会の記録簿がある。実際にはラテン語で書かれているが、1914年から1939年にまたがる「ナカゴトウ」と書かれた洗礼台帳だ。「ナカゴトウ」に続けて、「フクミ」「ハマガシ」「フナガクシ」「サノハラ」と説明が加えられていた。▲上五島地区は、現在11の小教区があるが、先の4つの教会は2つの小教区にまたがっている。「フクミ」「ハマガシ」は浜串小教区、「フナガクシ」「サノハラ」は鯛ノ浦小教区である。なぜこの4つの教会の洗礼台帳が1冊の本にまとめられているのだろうか。上五島地区をご存じの方は察しがつくかもしれない。4つの教会は、距離的に近いのである。▲現在2つの小教区に分担されているのは、「町制」と深い関係があつて、「フクミ」「ハマガシ」は旧奈良尾町、「フナガクシ」「サノハラ」は旧有川町に属している。小教区が現在の区割りになる時、「町制」に根拠をおいて考えられたのだから。▲ここで1つ考えたいことがある。今、上五島は町村合併で1つの町になっている。そうであれば、「ナカゴトウ」という洗礼台帳は、何かを教えてくれているのではないだろうか。神学生志願者が激減し、「神父さまにならないか」と侍者に声をかけても「無理です」と即答される時代である。今いる人材で司牧可能な、将来を見越した区割りの準備が必要と考える。(K・N)



## 世界平和の日 メッセージ講演会

平和のために全世界のカトリック教会が特別な祈りをささげている「世界平和の日」(毎年1月1日)。教皇ベネディクト16世が発表したこの「世界平和の日」メッセージを読み解く講演会が、1月30日にカトリックセンターで開かれた。教区正義と平和推進部会(担当司祭・中尾直通師) 主管。講師を務めたフィリップ・マッテユ師(神言修道会司祭、名古屋教区刈



谷教会主任)は、「平和への道としての信教の自

由」を述べた教皇メッセージについて分かりやすく説いた。フィリップ師は「教皇さまは、信教の自由を妨げることは人間を人間でないものにしてしまうから、信教の自由を認めてほしいと訴えた。これはとても大事なこと」と話し、また、宗教を超え共に「神」に祈った自身の体験にも触れ、「宗教は人と人をつなげるもの。宗教は一緒にない、不可能だと言ったとしても、神の真理を求めているわたしたちは、視点を変えてみると共通

## 修道会宣教会つー らうに参加して

1月24日(月) 那覇市安里教会で、日本カトリック管区長協議会、日本女子修道会総長管区長会、修道会宣教会フォーラム委員会による「第6回修道会・宣教会フォーラム」が開催されました。参加者105人。「教区との関係を見直しつつ、修道会・宣教会の存在意義を考え、教区と共有できるヴィジョンを探る」という意図のもと、今回のテーマは「地方教会から見た福音宣教」として、3人の司教さまの講話を伺いました。

は、自由の中で責任を持ちながら放たれた宣教を、体で信仰をするよう勧められました。また、皆が参加できる「ネット宣教」について話してくださいました。

式のもと、池長司教さま(大阪)はじめ多くの司祭・修道者・信徒が一つになりミサが行われました(写真)。

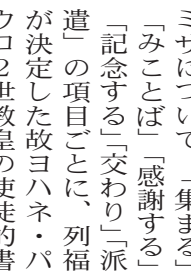
けました。フォーラムはもとより、人と出合い、温かい心で接することが福音宣教につながるというのを、沖縄の温かい歓迎から身をもって体験した思いでいます。「かわらなければ何も始まらない、神に愛された喜びを体で表現できた」との思いを新たにしました。それぞれの教区がさまざまな問題を抱えていますが、人々の平和、世界の平和を望む心は同じだと思っています。

平和を強く望む沖縄でフォーラムが開催されたことに一人一人が大きな意義を見いだしたように思います。それぞれの場所、教区と協力し、福音的観点で平和を訴え続けることを願います。

お告げのマリア修道会 辻原 睦子

## 下五島地区司祭団主催 典礼研修会

2月6日、福江教会で全信徒を対象に要理聖書講座が開催され、約150人が参加し典礼について



の学びを深めた。下五島地区司祭団主催、講師は聖アントニオ神学院・日本カトリック神学院の典礼講師、宮越俊光氏。信仰生活の中心であるミサについて、「集まる」「みことば」「感謝する」「記念する」「交わり」「派遣」の項目ごとに、列福が決定した故ヨハネ・パウロ2世教皇の使徒的書簡を取り入れた詳しい説

明があった。復活の日の夕方に使徒たちが経験したことを特

に強く追体験するのが日曜日のミサであること、教会にいのちを与える聖体が希望と一致の源泉であり、使命を与えられそれぞれの場に派遣されるわたしたちの日常生活をミサにつなげていくことの大切さなど、内容は主日のミサの重要性に貫かれ、五島における数少ない貴重な研修の機会となった。

押川司教さま(那覇)は、沖縄の歴史を分かりやすく説明し、宣教会から見た福音宣教について話されました。平賀司教さま(仙台)は過去10年の仙台教区の現状を説明し、家庭と司祭、家庭と修道者のかかわりの大切さを話されました。また、郡山司教さま(鹿児島)

午後10人ほどのグループに分かれて分かち合い、次回フォーラムに向けての提言を出し合いました。終わりにアルベルト・ボッターリ・デ・カステロ教皇大使の司

フォーラムの前日、お祈りの集いの後、地元の方やシスターの方の手作りの料理をいただき、踊りや歌によるもてなしを受

信徒の集いは、「信仰の恵みに生かされて」というテーマのもと、教会音楽、聖劇、受難の朗読劇など、日ごろの練習を通して培った信徒の交流の輪を、発表を通して小教区同士にも広げることができた。中には、「見失った羊」のたとえの通り、1000人に迫る協力者を得て、百匹の中の見失った一匹を探し出す劇もあり、上五島の教会の底力を見せるような発表となった。

主催した上五島地区評議会の会長で、青方教会主任の浜崎靖彦神父は、「第5回になり、雰囲気は今まで一番だった。信徒の集いは、準備の段階で小教区信徒が活発に触れ合っている。とても素晴らしい」と語った。これからは、上五島地区の一押し行事となることを目指している。

上五島地区信徒の集い

## 2011年 キリスト教一致祈禱祭 「祈ることについて」

1月30日中町教会で、同教会と日本聖公会長崎聖三一教会と教区エキュメニズム・諸宗教委員会(委員長・野下千年師)



キリスト教には、歴史の上でカトリック教会から離れていったギリシャ正教会やプロテスタント(新教)と呼ばれるキリスト教、英国教会に始まる「聖公会」などがある。これらキリスト者の一致を祈るため、毎年1

長崎では、野下千年師の呼び掛けに応じて、長崎聖三一教会の堀尾憲孝司祭が共に司式し祈禱祭を行った。長崎地区からは信徒・修道女たちも参加。その後、同教会信徒会館で参加者同志が交流、子供と共に祈禱祭に参加した聖三一教会の女性信徒は「一緒にお祈りができてよかったです。信仰の恵みを共有したいですね」と話した。祈り、交流し、理解を深める機会となった。

同で堅信式を行っていたが、少子化の影響で受堅者が少なくなり、今回から下五島地区の合同となった。当日は下五島地区の各小教区から、合わ

受けた。式の中で大司教は「キリストの愛を証しする人になり、周りにいる人を愛する人になつてほしい」と励ましの言葉を送った。式の後、信徒会館で大司教と共に祝賀会が行われ、堅信の喜びを分かち合うひとときを過ごした。

同で堅信式を行っていたが、少子化の影響で受堅者が少なくなり、今回から下五島地区の合同となった。当日は下五島地区の各小教区から、合わ

受けた。式の中で大司教は「キリストの愛を証しする人になり、周りにいる人を愛する人になつてほしい」と励ましの言葉を送った。式の後、信徒会館で大司教と共に祝賀会が行われ、堅信の喜びを分かち合うひとときを過ごした。

同で堅信式を行っていたが、少子化の影響で受堅者が少なくなり、今回から下五島地区の合同となった。当日は下五島地区の各小教区から、合わ

同で堅信式を行っていたが、少子化の影響で受堅者が少なくなり、今回から下五島地区の合同となった。当日は下五島地区の各小教区から、合わ

同で堅信式を行っていたが、少子化の影響で受堅者が少なくなり、今回から下五島地区の合同となった。当日は下五島地区の各小教区から、合わ

## 共催の「キリスト教一致 祈禱祭」が行われた。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。

合同祈禱祭や行事が各地で開かれている。



## 小教区設立25周年の思いを 殉教者と共に

2月11日に記念式典(東長崎)

東長崎教会(主任司祭・内野洋平師)は2月11日、コンベンツアル聖フランシスコ修道会日本管区



長・崎濱宏美師司式のもと小教区設立25周年を祝う記念ミサを行った。同教会は1955年12

月、幼稚園の一室をチャペルとして2、3世帯の共同体からその歩みを始める。30年にわたる(本河内教会の)巡回教会時代を経て2010年12月25日、25周年の節目を迎えた。この1年間のテーマとして「汚れなき聖母の御心のうちに殉教者の信仰をうけつぎ 神の愛に生きる」を掲げるとともに「25周年の祈り」を唱えてきた。

今から400年前、この東長崎の地においても多くの殉教者が神のもとへと導かれたが、そのことを後世に引き継ぐために「古賀殉教



当日は初代主任司祭の園田善昭師をはじめ多くの神父、信徒が出席し、厳かな中にも喜びに満ちた祈りと聖歌がさげられた。小教区評議会議長の横山碩男さんは、「殉教者の強い信仰を教会の歴史に刻み、新たな出発にしたいと思います」と話した。

## 大浦天主堂で 召命祈願ミサ

第3回召命祈願ミサが1月28日、高見三明大司教司式のもと、大浦天主堂で行われ、神学生志願生、召命を願う多くの信徒が参列し祈りをささげた。司祭職を目指している



神学生のため、また新たな召命の恵みを願って始められた召命祈願ミサも3回目を迎え、今回も多くの人々が大浦天主堂に集まった。説教を担当した佐藤哲夫神父(大司教館)は自身の召命体験、特にその中で家族との

聖体拝領後には節目を迎える中学3年、高校3年、大学4年生の神学生が紹介され、新たな歩みに向けた抱負を述べた。ミサに参加した女性信徒は「神学生の皆さんも新たに頑張ろうという気持ちになったと思います。自分の

## ステファナ

木村スガ修道女  
(長崎純心聖母会)



1月17日、聖フランシスコ病院にて膀胱がんのため帰天。68歳。1942年佐世保市生まれ。63年入会、67年初誓願、76年終生誓願宣立。初誓願宣立後は鹿児島、東京に派遣され、主に縫

1月26日、聖フランシスコ病院ホスピスにて膀胱がんのため帰天。86歳。1924年、佐世保市生まれ。46年入会、49年初誓願、58年終生誓願宣立。初誓願宣立後は鹿児島や佐世保地区で幼稚園

力がでなく、みんなが応援していることの実感が持てたのでは。佐藤神父さまのお話には(心打たれて)涙が出ました。召命において励まされた。次回のミサは6月に行われる予定。

住宅地から50段ほどの階段を登った高台に人々を見守るように建っている。高齡化が進み、現在15世帯であるがそのほとんどが高齡者。次の若い世代がしっかりと信仰を受け継いでいくことが今後の大きな課題である。(奈留教会広報委員会)

## 江上教会 4家族の受洗 に始まる



わたしたちの奈留小教区がある奈留島は五島列島のほぼ中央に位置し、東は若松島に面し、西は久賀島に面する、総面積16.12km<sup>2</sup>の島。南東から

北西に長く、全島が急傾斜地で、地形は極めて複雑、起伏に富んでいる。江上教会は、旧大村藩から移住した4家族が1881年(明治14)3月に受洗したことにより始まる。1906年(明治39)に、現在の敷地に教会を建てたが簡素なものであったため、1917年(大正6)3月に現在の教会を鉄川与助氏に依頼し建設した。完成は翌年1918年(大正7)3月。聖ヨゼフにささげられた。2001年(平成13)

## 南越教会

旧教会は天理教の教会を譲り受けたのが始まり

外海地方の信者が迫害を逃れて移り住んだのが現在の南越地区である。そのころ外海地方では「五島へ五島へと皆行き」たが五島はやさしや土地までも」と唄われていたほどであったが、実際に移り住んでみると、肥えた土地もなく、漁の多い海岸は先住者の人々が領有しており、移住者たちは山間地のやせた土地や、漁に行くにも不便な浜辺



貝津港から渡海船で約30分、短い船旅を終えるころ教会が姿を現す。1918年(大正7)に建てられたその教会は、今もしっかりと信者たちの祈りの場としての役割を果たしている。代々大切に守られてきたことの証しである。そこには信者たちの思いと祈りがしみこんでいる。

## 貝津小教区

嵯峨島教会  
島の教会

貝津港から渡海船で約30分、短い船旅を終えるころ教会が姿を現す。1918年(大正7)に建てられたその教会は、今もしっかりと信者たちの祈りの場としての役割を果たしている。代々大切に守られてきたことの証しである。そこには信者たちの思いと祈りがしみこんでいる。



嵯峨島には迫害時代にすでに潜伏キリシタンたちがいた。禁教の高札撤廃後、1888年(明治21)に最初の小聖堂が建てられ、その後今日の教会が建てられることとなる。迫害の時代を耐え、今日に至るまで脈々と受け継がれてきた祈りが教会内に漂った空気を与えているのであろう。

## 2011 年度 生涯養成委員会主催 聖書講座・信仰養成講座のご案内

※日程は変更する場合があります。

聖書講座  
今年は、ヨハネ福音書を手がかりにみことばを味わいます。

信仰養成講座  
(A年度) テキスト「カトリック教会のカテキズム要約」・講師による資料

| 月 日      | 講 師           |
|----------|---------------|
| 4月14日    | 【概論】高見三明大司教   |
| 4月28日    | 小寺左千夫師        |
| 5月12日    | 萩原 劭師         |
| 5月19日    | 小寺左千夫師        |
| 5月26日    | 中浜敬司師         |
| 6月2日     | 萩原 劭師         |
| 6月9日     | 【公開講座】高見三明大司教 |
| 6月16日    | 小寺左千夫師        |
| 6月23日    | 中浜敬司師         |
| 6月30日    | 小寺左千夫師        |
| 7月7日     | 萩原 劭師         |
| 7月14日    | 中浜敬司師         |
| 9月1日     | 萩原 劭師         |
| 9月8日     | 中浜敬司師         |
| 9月15日    | 小寺左千夫師        |
| 9月22日    | 中浜敬司師         |
| 10月2日(日) | 【公開講座】澤田豊成師   |
| 10月6日    | 萩原 劭師         |
| 10月13日   | 中浜敬司師         |
| 10月20日   | 小寺左千夫師        |

| 月 日   | 科 目             |
|-------|-----------------|
| 4月16日 | 神を知る道・神の啓示      |
| 4月30日 | 神の啓示の伝達・聖書      |
| 5月7日  | 神への人間の応答        |
| 5月14日 | 信条・父なる神         |
| 5月21日 | 三位一体・摂理と悪       |
| 5月28日 | 天と地(創造)         |
| 6月4日  | 人間              |
| 6月11日 | 墮罪              |
| 6月18日 | イエス・キリスト①(受肉)   |
| 6月25日 | イエス・キリスト②(死と復活) |
| 7月2日  | 聖霊              |
| 7月9日  | 教会              |
| 9月10日 | 教会の特徴           |
| 9月17日 | キリスト者           |
| 9月24日 | 聖徒の交わり・マリア      |

| 月 日    | 科 目               |
|--------|-------------------|
| 10月1日  | 罪のゆるし             |
| 10月8日  | からだの復活            |
| 10月15日 | 永遠のいのち            |
| 10月22日 | 日本の教会史①～④         |
| 11月5日  |                   |
| 11月12日 |                   |
| 11月26日 | 第2バチカン公会議と近代日本の教会 |
| 12月3日  |                   |
| 12月10日 | 要理教育              |
| 1月7日   |                   |
| 1月14日  | 小共同体①～③           |
| 1月21日  |                   |
| 1月28日  |                   |
| 2月4日   | 修了式               |
| 3月4日   |                   |

### <聖書講座・講師が担当する内容>

高見大司教 ヨハネ福音書概論と前期の公開講座。  
澤田 師 後期の公開講座。日曜日の午後に約3時間の講座を予定しています。  
萩原 師 ヨハネ福音書全体に流れるイエスの福音を萩原流に語ります。  
小寺 師 ヨハネ福音書の中から独自のテーマでイエスのメッセージを読み解きます。  
中浜 師 新約聖書(4福音書)の世界について整理します。

◇日 時：聖書講座(木曜日)19時～20時30分  
信仰養成講座(土曜日)19時～20時30分  
◇場 所：カトリックセンター2階講堂(公開聖書講座はホール)  
◇聴 講 料：聖書講座13,000円 信仰養成講座16,000円  
\*科目聴講もできます。1科目(1時間30分)千円。  
◇申込期間：2011年3月13日～4月13日

### 申込先

〒852-8113 長崎市上野町10-34 生涯養成委員会  
(TEL) 095-841-7731 (FAX) 095-841-7732

や教会奉仕を通して宣教した。また長年、派遣された修道院内の調理を担当し、使徒的活動の現場で奉仕する姉妹たちを黙々と支えた。2003年に膀胱腫瘍

の手術を受けた後は、通院や入院を繰り返していたが、痛みに対して弱音を吐くことなく、強い信仰と忍耐のうちにすべてを受け入れ、奉獻者としての模範を示した。穏やかな笑みと、いつも他

者を気遣い、さりげなく目立たないかたちで奉仕する姿は生涯を通じて一貫していた。葬儀ミサ、告別式は同27日、修道会本部聖堂で行われた。

製関係で奉仕。70年以降は小野田老人ホーム(山口)や軽費老人ホームと「きわ荘(長崎)」など社会福祉施設で介護職に従事した。昨年4月から体調を崩し入院生活となったが、持ち前の明るさと気

丈さで苦しい治療に耐えていた。植物が好きで施設の庭に花々を植え、細やかな心配りで入居者の目を和ませていた。また、行事などでの花生け奉仕ではセンスの良さで人を楽し

ませ喜ばれていた。控えめな人柄の中におちやかな一面もあり、親しみを与えていた。葬儀ミサ、告別式は同19日、修道会本部聖堂で行われた。



## ♪南山小コーラス部 全国大会で最高賞受賞♪ 平成22年度こども音楽コンクール



今年度の「こども音楽コンクール」西日本大会で最優秀賞を受賞し、全国大会に出場していた長崎南山小学校コーラス部が1月23日、東京で行われた

選考会(テーパー審査)で日本一に当たる文部科学大臣奨励賞を獲得した。同コーラス部の全部員44人が歌った最高賞受賞曲は「夕暮れの歌声」

ルカ4章18節  
「主の霊がわたしのしの上に  
おられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである」  
「今日の〇〇は〇〇さんからです。感謝していただきます。神学院では食事の前にいただきます物、また援助をしてくださった方に感謝して食事いただきます。神学生のために使ってください」そう言って、肉に魚に野菜といった食料品、日用品や現金寄付にいたるまで、たくさんの方の援助が神学校には寄せられます。

### みことばにふれて 72

野濱達也神父  
(長崎カトリック神学院)

す。信徒の皆さまの心温まるご厚意にただただ感謝するばかりです。  
年末から年始にかけて

て、「伊達直人」を名乗る人物からの贈り物が児童養護施設や相談所に届けられ、こういった善意



なく、キリスト者であるわたしたちに大切なことを気付かせてくれます。イエスは福音宣教を始めるにあたって、ご自分の使命についてイザヤ書

ある行いが全国的な広がりをみせたタイガーマスク現象が話題となり、また、善意ある人々の行いはわたしたちの心を温かくしてくれるだけでは

人、弱い立場にある人々に積極的にかかわっています。福音書に描かれているのは「貧しい人々の友」であったイエスの姿は「窄口歩神学生」

イェスは罪人、病人、やもめ、徴税人、子ども、こういった貧しい人、苦しむ人、小さい人、包まれますように、わたしたち一人一人が愛の行いを実践していくことができますように。(カトリック)

の言葉を用いて次のように語っています。「主の霊がわたしのしに上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである」と。

選考会(テーパー審査)で日本一に当たる文部科学大臣奨励賞を獲得した。同コーラス部の全部員44人が歌った最高賞受賞曲は「夕暮れの歌声」

はたくさんのお恵みに感謝しながら聖歌を歌い、施設訪問やコンサートで多くの方々に楽しく聴いていただくことも子供たちの喜びとなっています。コンクールはこうした1年間の中の取り組みの1つです。一つ一つのステージを終えるたびに、互いの心のつながりも深くなっています。毎年3月に行うチャリティコンサートでは「わたしたちの歌声が神さまの御国に役立つものとなりま

### 受賞記念演奏披露

3月5日(土)14時  
西町教会にて

安全を願い、まずはお祈り。沿道には保育園の園児やシスター、各教会から駆け付けた信徒らが集まり、手作りの横断幕や旗を振りながら応援。特に地元の司祭が通るときには大いに盛り上がり、最長で約10キロのコース

安全を願い、まずはお祈り。沿道には保育園の園児やシスター、各教会から駆け付けた信徒らが集まり、手作りの横断幕や旗を振りながら応援。特に地元の司祭が通るときには大いに盛り上がり、最長で約10キロのコース

安全を願い、まずはお祈り。沿道には保育園の園児やシスター、各教会から駆け付けた信徒らが集まり、手作りの横断幕や旗を振りながら応援。特に地元の司祭が通るときには大いに盛り上がり、最長で約10キロのコース



福江教会を一緒にスタート

### 司祭団マラソン大会

司祭と信徒の交流のため毎年行われている司祭団マラソン大会が、1月25日、五島市で行われた。今回は道路工事の関係でいつもの堂崎・福江間のコースではなく、福江・浦頭間の折り返しコース。参加する司祭30人余は出発前に全員の完走と切っていた。

### 『聖』を描くイコン 長崎市で展示会

「イコン展」ギリシャ・ロシア東方正教会の知られざる聖画の世界」が1月25日から2月13日まで、長崎市松が枝町のナガサキピースミュージアムで開催された。

リチャード・グレン、写しの意味。キリスト、聖母、聖人などを描いたその世界は、目に見える像(絵画)を通して、見えない超越的な聖なるものと人々を導く。

イコンの伝統は1千年以上。今回、8、9世紀に起こった聖像破壊運動を免れた現存する最古のイコンの複製もあった。

昨年5月に初めて一般に呼び掛けて収穫された「ド・ロさまの青いお茶」。今年は5月4、5日に1回目、5月28日(雨天時は5月30日に変更)に2回目の茶摘みが予定されている。旧出津救助院(指定重要文化財)とド・ロ神父遺跡(県指定史跡)を活用する部会「ド・ロさまの家」ではお茶摘みの協力者を呼び掛けている。

関係者は、「神さまと人々への愛に生きたド・ロさまのことを少しでも多くの方々に知っていただき、豊かな自然に触れながら当時をしのび現代に生きるわたしたちも、変わらない愛で満たされている」と感じている。問い合わせ・申し込みは旧出津救助院事務局(TEL 095-959-2511002)まで。

### 新刊良書

★司祭職 教皇ベネディクト16世著  
2009年6月19日から10月6日までの間に開催された「司祭年」に本書は、この年に教皇が行った「司祭の3つの任務」に関する連続講話など収録。カトリック中央協議会、1050円。

★完訳ドン・ボスコ伝  
テレビオ・ボスコ著  
見捨てられた若者たちのために神父として生涯をささげたドン・ボスコ。最新の歴史研究・資料をもとにドン・ボスコの魅力あふれる生涯を描く完訳版。ドン・ボスコ社、1890円。

★教皇訪日物語 水浦征男著  
今年は1981年のヨハネ・パウロ2世訪日から30周年。訪日時カトリック中央協議会広報委員会で報道対応に当たった広報責任者・水浦神父が当時を振り返り記した1冊。聖母文庫、525円。

外海「うーでーら」が昨年から活動を開始、情報発信やド・ロさまの研究、大平(西出津地区)の畑の生産物の活用・加工、開墾や収穫などそれぞれに取り組む。そして「ド・ロさまの家」は3グループの代表者の連絡会他、事務局的な働きを担っている。

### 召命黙想会のご案内

主よ！私のために道を示してください！  
あなたのいやしの業を行うために！

日時：2011年4月29日(金)17時～5月1日(日)午前中  
場所：長崎市 立山黙想の家  
対象：未婚の若い女性(35歳くらいまで)  
指導：ディアス神父様(イエズス会)  
参加費：3,000円  
締切：2011年4月25日(月)  
主催：聖フランシスコ病院修道女会 長崎修道院

申し込み・問い合わせ  
シスター石岡ヒロ子(聖フランシスコ病院 看護部)  
TEL095-846-1888(代) FAX095-845-7600  
E-mail: ishioka@sfs.or.jp  
URL: http://www.hsosf.or.jp

### 墓地改修・新設 個人のご相談も承ります

実績 城山教会墓地 飽の浦教会墓地  
浜串教会墓地 青砂ヶ浦教会墓地 他 多数  
(有)長崎大理石 社長 ヨハネ 濱本直行  
本社 長崎市つづじが丘5-1-15 (TEL)095-839-0374  
加工工場 諫早中核工業団地

### 大田白蟻研究所

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付  
白蟻防除施工士  
代表者 マリア 大島 睦子  
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号  
長崎 095-822-8436  
FAX 095-822-8436

タンスの中身は入れたまま責任ある安全運送!!  
(見積り無料・荷造り発送も致します)

貨物保険有り  
・一般引越  
・小荷物  
・遠距離  
・学生引越  
・ピアノ運搬

### 水浦運送

シモン 水浦 幹雄  
長崎市上野町12-3  
TEL(095)49847-7151  
844-1420

### 交通誘導警備 常駐警備 イベント警備

### (有)小田警備保障

警備員募集!  
電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523  
長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦